

林大だより



第90号 令和7年10月31日

長野県林業大学校翌桧会



2学年 5月 山の環境学（上高地）



2学年 6月 北海道研修



1学年 4月 屋久島研修

翌桧会会長に就任して

翌桧会 会長 牧野 博臣



このたび、長野県林業大学校翌桧会会长長を仰せつかりました。牧野と申します。赤羽前会長の後任ということで、身の引き締まる思いです。重責

をお引き受けしたからには、翌桧会の発展のため、学生たちの健康と学業成功のために微力ながらも全力を尽くす所存です。会員の皆様方のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げま

さて、翌桧会は保護者様からお預かりしている学生の充実した生活の支援と、学校が

長野県林業大学校 校長 千村 広道



選ばれる長野林大生へ
子寮もありますし、男子寮も新しくなりました。二十五年前には専修学校となり、卒業までに得られる資格も格段に増えました。

本年四月から校長を務めております。私は長野林大七期卒業生で、今的一年生が四十七期生ですので四十年ぶりの再入学（？）です。よろしくお願いします。

四十多年前は男子ばかりでしたが、今は女子学生もいて女

県まで全国で二十八校まで増えました。そのような中、近十年間での県外者の割合は約四割になっていて長野林大が全国の若者からも選ばれています。

選ばれる長野林大、その魅力は開校以来から変わらない「全寮制」と「幅広い進路」にあると思います。

特に変わったのは県外出身の学生が増えたことです。私の同期にも二人いましたが、現在の在校生の半分は県外出身者です。当時本校のようないい学校は全国に五校しかありませんでしたが、十五年前から各地で開校されるようになり、現在は北海道から鹿児島

県まで全国で二十八校まで増えました。そのような中、近十年間での県外者の割合は約四割になっていて長野林大が全国の若者からも選ばれています。

選ばれる長野林大として（抽象的ですが）この二年間は間違いなくこれから自分の「財産」になります。「卒業まで頑張りましょう！」

二つ目の進路（これまでの割合）については、公務員（三十五%）、民間企業（三十四%）、森林組合（十八%）、進学（五%）、その他自営等（八%）と他県の林大にない幅広い実績があります。最近は売り手市場で今年七月の県内有効求人倍率は一・二八倍とのことです。二十人の本校への求人は今年も五十人を超えています。ただ、学生は単に給与が高く休日が多いところを選ぶのでな

く、インターネットショッピングを通じて職場の「雰囲気」や「安全意識」などを重視して選ぼうという姿勢があり、これにはとても感心しています。

少子高齢化社会で様々な産業が担い手不足の中、林業界でも未来を担う人材の確保は最重要課題です。現場で活かせる資格取得だけでなく、「人間力」の高い人材となり、業界から「選ばれる長野林大生」となって卒業されるよう職員一丸となつて取り組みますので、今後とも御支援をお願い申し上げます。

また、教職員と保護者がコミュニケーションをとり、理解し合いながら互いに協力することも大切な部分であると考えます。

私たち保護者は、お互いに会員の皆様のお力添えなくしては成すことができません。役員一同、精一杯頑張りますので、皆様の「知恵」をお借りしながら取り組んでいきたいと思っております。どうか林業大学校と

二年生の皆さんは卒業まで早くも半年余りとなりました。授業はもとより目標に向けての準備に忙しいことと思います。皆さんのが健闘・ご活躍を期待します。

新入生の皆さん、全寮制の生活に慣れましたでしょうか。わからないことや不安なことがあります先輩に聞いてください。

翌桧会のさらなる発展のためご理解とご協力をいただきますよう重ねてお願い申し上げます。

山で会いましょう

木曽森林管理署長 北村 大



長野県南佐久郡白田町（現佐久市）出身の私は、地元の林業高校を出、今の職場に就職し四十年が過ぎたところで

初めて見る木曽ヒノキの大木に圧倒されたこと、背丈を超える笹の中を這いすり回るよう収穫調査をしたこと、初め渡された地下足袋、脚絆の履き方が分からず先輩に教えてもらったことなど今でも

鮮明に覚えています。

林業高校を出たと言つても、年に二回演習林に行く程度でほとんどが座学による勉強、そんな私ですから初めて履く地下足袋・脚絆の履き方も知らなかつたわけです。

先日行われた信州伐木チャンピオンシップ二〇二五を傍聴させていただきました。選手の中には林大生四名も参加

されており、林業を仕事としている先輩方と一緒にテープルに立つて一生懸命チェーンソーを扱っている姿を見て感銘を受けました。この技術は

きっと将来役立つでしょう。当署では、木曽谷特有の急峻な山から架線集材により立木を出す仕事を請負事業体に発注しており、先日、林大生にもその現場を見てもらつたところです。見学された皆さんはどう感じたでしょうか。すごい仕事だな、危ない仕事だな、山で毎日お昼食べて健康で良いな、などでしょうか。

先輩達が植えたヒノキやカラマツの人工林がこの木曽にも多くあり、その多くが利用期に達しています。この人工林の利活用、そして次世代に

向け、再造林していくことが大切なテーマとなつています。そのためには人材が必要です。

先生方、同級生との縁を大切に、将来の勤め先はそれぞれ違えども、またどこかの山で会つたら、「こんちは、元気?」と言い合える先輩、同期を作りましょう。私も皆さんと山で会えることを楽しみにしています。

日本赤十字社長野県支部指導員
おもちゃ美術館前館長

竹脇 恵美

周囲の観察！危険なし！



日本赤十字社長野県支部
救急法指導員として、林業大

学校で毎年四日間の講習を担当させていただいている木曾町開田高原在住の竹脇です。

心肺蘇生法の実習では、「人が倒れています！」と傷病者を発見した後、次にするのが、タイトルのとおり、自分自身の安全の確保です。その確認をしないまま飛び出せば二次事故、二次災害の危険があり、傷病者の救助も叶わないことになるからです。私たちにはプロの救助者ではありません。講習では何回も、ま

さは自分の安全確保、と学生の皆さんにお伝えしています。林業の現場では、数多くの危険が潜んでいます。伐採などの作業ばかりではなく、地形や天候、蜂、蛇、熊などの危険生物、また携帯電話の通じないところでの急病などが、もちろん、安全に仕事をするため、機械の仕組みや扱い方など多くのことを学び、技術の向上のため、日々努力を重ねていることと思います。それでも現場では予想もしない危険にさらされることがある

講習では、心肺蘇生のほかにも止血法や三角巾での包帯法、また中毒や熱中症の予防など幅広い知識も学んでいたります。二回の学科と実技の検定試験を行い、合格した学生には赤十字の「救急法救急員」の資格が与えられます

が、それで安心することなく、いざという時、勇気をもって行動できるよう、これ

からも正しい知識と技術の習得を是非継続していくください。そして何より、皆さん自身が傷病者になることがないよう、常にタイトルのようになります。

くださいね。

矛盾するようですが、しっかりと技術を身につけながらも、その技術が活かされる日が来ないことを、心より強く願っています。



あすなろの弦

つぶやき

学校・寮生活から



1学年 伊藤 葵

入学してから今まで

四月から長野県林業大学校に入学することになり、この半年の間に様々な経験をしました。最初のうちは一つの部屋に四人で共同生活することに慣れず、なかなか寝付けない夜もありました。カーテンで仕切られているとはいえ、相手の生活音に敏感になりストレスでした。今は時間がたった。他のにも、入学して早々に屋久島研修へ行きました。人生初の飛行機にも乗れ、屋久杉と大自然をこの身で体感することができます。

夏も終わり本格的に季節が

変わり始めている中、こうして今までの生活を振り返ると、もう四分の一が過ぎてしまい、二年間はあつという間に終わってしまうなど感じました。今までの期間も含め、この二年間は自分で意味のあった期間だった



1学年 4月 特用林産学（シイタケ植菌）



1学年 5月 救急救命

長野県林業大学校に入学し約半年が過ぎました。そこで、多くの経験と楽しい出来事がありました。

私は愛知県の農林業高校へ行き林業の基礎について学ん

できましたが、大学に入学し今まで学んできたことはもちろん、森林の土壌や森林經營についてなど高校では学ぶことのできない内容を学ぶことができました。その中で一番楽しかったと思ったのがチエーンソーの実習です。高校ではチエーンソーを見かけすることはありましたが基本的に教員が使用していました。しかし、大学に入学し基本的な技術はもちろん、ハスクバーナーさんの研修により知識や応用技術を学ぶことができます。

私は林業大学校の魅力は日々の実習や校外学習での施設見学、そして地域との交流イベントだと思います。残りの学校生活はしっかりと学ぶとともに地域イベントにも積極的に参加し充実した学校生生活を過ごせるようにします。

林大の日常



1学年 鈴木 朝信

特に、文化や価値観の違いからコミュニケーションがうまくいかないこともあります。戸惑うことの連続でした。でも、それは最初の十日間ぐら



1学年 6月 トップガン研修

四月に長野県林業大学校に入学してから約半年が経ち、入学前とは違った環境にも慣れてきました。自分は普通科高校出身で林業についての知識が全くない状態で入学したため、入学当初は初めて受ける科目や初めての寮生活で「授業についていけない」とか「先輩方や同級生たちどうか」「自分たちどうか」「自分たちどうか」など不安がたくさんありました。自分が林業が得意なわけでもないのに、なぜここに来たのか」という目的を忘れず、日々をより良くしようと前向きに取り組んでいます。

初めての親元を離れた生活は大変だと感じることもありますが、「なぜここに来たのか」という目的を忘れず、日々をより良くしようと前向きに取り組んでいます。

四月に長野県林業大学校に入学してから約半年が経ち、入学前とは違った環境にも慣れてきました。自分は普通科高校出身で林業についての知識が全くない状態で入学したため、入学当初は初めて受ける科目や初めての寮生活で「授業についていけない」とか「先輩方や同級生たちどうか」「自分たちどうか」「自分たちどうか」など不安がたくさんあります。



1学年 藤田 智輝

管理を怠らずきちんと生活できるか」など不安がたくさんありました。ですが、入学し先輩方や同級生たちと一緒に生活していくうちにこの環境にだんだんと慣れていき不安はなくなりました。授業では先生方が一つ一つわかりやすく教えてくださり、実習や校外研修も楽しみながら受けることができます。寮での生活は各々が自由に生活しており、先輩の優しさもあり楽しく生活でています。林大生活の約四分の一が終わってしまったことにすごく時間が経つのが早いと思いました。これから的一日一日を大切にし、卒業する際に後悔がないように過ごしていきたいと思います。

そして、自分と同じようなレベルの人や、林業について初めての人が多いと知り、授業はある程度知っていることが多いと思っていました。それも私が農林高校出身だからそう思っていました。ですが、林業大学校に入学してから新しく学ぶこと、高校で学んだことのより詳しい

こと、実際に植樹やチェーンソーなどの実習を通して、林業についてまだ知らないことが多いのだと実感しました。これから林業大学校での一日一日を大切にして残り約一年半でたくさんの機械技術や林業知識を身に付けて、自信をもって仕事ができるようになります。



1学年 三好 健太

業大学校なのだから、自分よりも機械技術や林業知識が豊富な人たちばかりではないのだろうか、先輩方や入学していく人たちとの寮生活はうまくやつていけるのだろうかと不安でした。だけど、入学してくる人たちは自分と同じようないいレベルの人や、林業について初めての人が多く、寮生活は先輩方が優しく接してくれました。

こと、実際に植樹やチェーンソーなどの実習を通して、林業についてまだ知らないことが多いのだと実感しました。これから林業大学校での一日一日を大切にして残り約一年半でたくさんの機械技術や林業知識を身に付けて、自信をもって仕事ができるようになります。

長野県林業大学校に入学してから、あっという間に約半年が過ぎました。入学前は林



1学年 7月 林業概論（赤沢自然休養林）

早くも 残りあと半年



2学年
伊藤 千紘

早いもので入学してから一年半がたちました。「まだ一年あるから大丈夫」と思っていたところが懐かしく、就職に頭を悩ませる日々を送っています。

林業の知識も技術もゼロで入学した私にとって、林大の授業は刺激的なものばかりです。特にチエーンソー技術は、自分の思い通りに使えた時の達成感や喜びが大きく、虜になっています。



2学年 4月 林業機械学



2学年
菊池 翔斗

林大での一年半を 振り返って

特に、立木伐倒といった実地での活動は、安全管理や効率的な作業の重要性を身をもって感じる貴重な場となっています。また、地域の森林組合や企業でのイン턴シップを通じて、林業が地域社会と密接に結びついていることも学びました。

仲間との協力や議論を重ねる中で、自分自身の課題も明確になり、将来の方向性を考える良い刺激となっていました。今後はさらに専門性を高め、森林を守り育てる担い手として成長できるよう努力を重ねていきたいと思います。

長野県林業大学校に入學して二年目を迎え、学びも一層深まつきました。昨年は基礎的な知識や技術を中心に習得しましたが、二年目となる今年は、より実践的な演習や現場での経験を通して、林業の全体像を理解する機会が増えていました。

その中でも特に印象に残ったのが一年の屋久島研修です。まだ入学したでしたが、繩文杉まで協力して登つていったことは一生忘れることがありません。

そんなこんなで二年生になり、先

一年生になつて



2学年
須藤 耀太



2学年 4月 木曽こども園児との交流

輩の立場になりました。正直、半年経つてもなれることはありませんが、同部屋後輩の指導や意思疎通などをかけての先輩方を思い出してやつてきました。

一年半、これまでの林大生活を振り返って一瞬でした。きっとこれから半年も一瞬で過ぎると思います。なので林大生活をこれまでのように楽しみ、充実した日々を過ごしたいと思います。

林大に入つて早くも一年半が経ちました。福岡市出身の私にとって、木曽での暮らしはすべてが新鮮で、この一年半は学びと挑戦の連続でした。自主研究は獣害対策と獣害利用の二つを行つていま



2学年 布元 武瑠

森と向き合い 地域を元気に

をどうつけることができるか模索しています。地域の方々と趣味の弓道を通じてつながりを持ち、ボランティア活動にも積極的に参加してきました。こうした経験を重ねる中で、林業は地域と密接に結びついた仕事であることを実感しています。将来は木曽地域の役場職員として、過疎化が進むこの地域を若い力で元気にしていきたいと考えています。残りの学生生活でも実践を積み重ね、地域に貢献できる人材を目指します。



2学年 5月 木材商業論（東信方面）

す。獣害対策では、わな猟免許を取得し、獣友会に加入しました。センサーカメラを用いた野生動物の生息調査、毎日わなの見回りを欠かさず続けることで、獣害対策の現状や森林との関わりを肌で学んでいます。獣害利用では、駆除されたイノシシやシカなどの鳥獣に附加価値



2学年 5月 車両系機械技能講習



2学年 9月 フォークリフト運転技能講習

林大での 一年半とこれから



2学年 牧野 大河

長野県林業大学校に入学してから約一年半が経ち、寮生活も残り半年となりました。大きな存在だった先輩方が卒業し、四月からは二年生とな

り、私は寮長という責任ある立場を任されました。初めは不安もありましたが、副寮長をはじめ仲の良い友人たちに支えられ、何とか威厳ある寮長として過ごさせています。今年は御社始祭や北海道研修、信州伐木チャンピオンシップなど、さまざまな経験を通じて、改めて長野県林業大学校に入学して良かったと感じています。現在は就職活動を始め、いよいよ社会人に

なる準備を進めています。林業は肉体労働のため、体力や筋力が欠かせません。そのため、残りの半年間、正直やりたくない筋トレもできるだけ頑張りたいと思います。林大で過ごした一年半は本当にあつという間でした。きっと残りの半年も同じよう

に過ぎていくでしょう。だからこそ、仲間とともにたくさんの大切な思い出を作つたいです。

保護者の
ページ林業を
目指す息子荻原
はづみ

「山で下草刈りをしたい。」

と、高校二年の秋に息子が言
い出した。勉強は苦手で、学
校も好きではない、三者面談
に行けばいつも担任に心配を
されている。将来目指すもの
もハッキリせず、大学に行き
心配しだした頃だった。やり
たい事があるなら、関連が
卒業後どうするのか、本気で
心配しだした頃だった。やり
たい事があるなら、関連が

人生で一番学校を楽しんでる
様子を聞いてる。やりたい
事は、下草刈りではなく、高
所の特殊伐採に変わっていて、
同級生とアーボリストの講習
に出かけている。たまに帰つ
てきて、生き生きと私の知ら
ない事を話す息子を頼もしく
感じている。やりたい事を見
つけた彼の成長が楽しみだ。

そのまま
大丈夫

一学年父母

小さい頃より海や魚が大好
きで、家を離れてまで海を学
べる高校に通っていた娘。海

未来は日々の積み重ねの先
にあるもの。自分の気持ちを
まず大切に、今しか過ぎせな
い時間を存分に味わって楽し
んで。



1学年 6月 チェーンソー実習

す。

大きく成長して
くれました中澤
彩

入学当初は、新しい環境や
専門的な授業、慣れない一人
暮らしにきちんと順応できる
のか、親として大きな不安が
ありました。しかし自然の中
での実習や仲間との協力を通
じて少しずつ自信をつけ、ま
た寮生活での生活面でも成長
した姿を見せてくれるよう

なり、安心と誇らしさを感じ
ています。ここまで成長させ
てくださった先生方、一緒に
学ぶ皆様には本
当に感謝してお
ります。

林業という分
野は決して楽な
道ではないと思
いますが本人が
自分選んだ進路
であり、真剣に
学びに向き合う
姿を見て、これ

からの可能性を強く信じられ
るようになりました。来年は
さらに専門性を高め、学びを
実践に結びつける機会も増え
ると聞いています。親として
は健康に気を配りながら、一
歩一歩確実に前進し、将来的
夢へとつなげていく姿を見守
りたいと思います。

出会いを大切に

松岡
美和

林業の仕事に就きたいとい
う思いから林業大学校に入学
したが、入学して一ヶ月経たな
いうちに楽しく生活している
と知り、とてもホッとした時
の事を思い出します。

そんな楽しい生活を送る
事が出来るのは、本人の頑張
りだけではなく、たくさんの
小論文を書かせ、添削をし
た。高校の先生方にも沢山面
接練習をしていただき、合格

私たちが住んでいるのは、雄大な山、自然豊かな川とは縁遠い海に面した街です。そのため、あまり林業に接点を持つことがありませんでした。



優しい先生方、先輩方や同級生、美味しいご飯を作つて下さる寮母さんがいる温かい環境があるおかげだと思います。

今では休みの日にアルバイトをするなど充実した日々を送つていいようですが、きっと楽しい事ばかりではなく、大変な思いをしたり、たくさん失敗したりする事もあると思います。

「失敗は成功のもと」何事も前向きに捉え、乗り越えていってくれたらと思います。

応援しています。

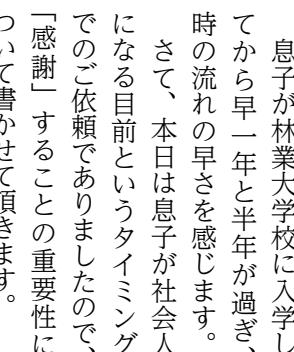
普通のことには疑問を持ち、感謝する。
それらは林大の環境、共同生活、林業を通じ豊富な経験の機会の中、育まれていくことを思っています。

自然豊かな木曽町、長野県に感謝しています。



今、コロナ禍を経て、仕事もプライベートもPC、スマホ、タブレットと必要不可欠な世の中になり、効率化、簡素化、時短を重視されてきたようになります。良いことはたくさんありますし受け入れていくべきことではあります

に出して伝える事が重要です。これから社会に出ていく事で、様々な困難に向き合っていく事になりますが、常に「感謝」を意識した言動・行動を行う事は、自身のみならず相手の行動も大きく変える事につながりますので、困った時には周囲の方々が助けて



幼い頃から野山を駆け巡り自然に触れのんびりと育つてきた息子が林業を学ぶと木曽に旅立ち、あつという間に二年目の夏が過ぎました。



木曽の自然と 人に育まれ

「将来は現場で働きたい」と林業の世界に飛び込んでいく覚悟を持つて就活中。危険も多い仕事なので心配な反面、現場を体験していく度に逞しく頼もしくなる様子に、心から応援したいと思います。

たまの休みに一緒に山歩きをすると、森や木、地形など専門的な話をしてくれて成長を実感します。また、先生方や実習先、地域の方々からも温かく関わって頂き、コミュニケーション力もグンと身についたようです。皆さまには、心より感謝いたします。

くれるでしょう。是非これから的人生では「感謝」という言葉を常に意識して生活してもらえればと思います。

最後になりますが、木曽の大自然の中で、親子共々様々な貴重な経験をさせて頂いた事に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



2学年 9月
森林保護獣害対策学（病害虫観察）

成長し続けること

五條
桂子



入学してから一年半が過ぎました。入学当初息子は、やせ型の体型でした。スーツは新調し、体格が大きくなることを予想し、少し大きめのスースを買いました。一年生の夏過ぎから体を鍛え始め、プロテインを飲み、帰省

するたびに体が「ムキムキ」になっていきました。今まで見たことのない努力をし、体を鍛え始めた息子は、自信を持ち、自己肯定感が上がりました。ただ体を鍛えすぎて、就活の時スースのズボンが「パツンパツン」で破れてしまうのではないかと心配でした。

就活も終了し、林大

生活半年となりました。仲間達との寮生活、充実した時間を過ごしてほしいと思いません。

寮生活「全寮制」はかけがえのない財産となり、これから



アダプト活動（花壇草取り）

感謝

原和代



娘が長野県林業大学校で過ごした一年半はとても貴重なものとなりました。

高校の時「樹木医になりたい」と言い出した時は「どこからその樹木医が出てきたの?」と思いました。周りには全くその関係の人がいなかつたので不思議でした

この一年半で仲間、先生、寮母さん、地域の皆さんに支えられ沢山の経験を積むことができて、安心しました。

卒業まで残りわずかですが、関わって頂いた皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

一年半を振り返つて

天間
啓介



然環境の大切さ及び先人たちが築いてきた特殊技術の継承。また、寮生活を通じて親に頼る事無く、自己管理の意識向上と仲間達と支え合いながら生きしていく協調性の強化。大和魂をもった大人に成長していく姿に感銘を受けています。

昨今、第一次・二次産業の

す。日本の未来を真剣に考えている大人も少ないのが現状です。

でも悲観的になる事はありません。学生時代に培った小さな変化を積み重ねる事で、大きな結果を生み出します。

やがて周りの世界も変わります。

いきます。周りの世界が変わればいつか日本が変わります。

最後になりますが、先生方

職員の皆様、立派な若人を育成頂き誠に感謝申し上げま

す。

早いもので入学から一年半が過ぎました。

林業大学校での教育は、自

己の成長を助けてくれました。林業大学校での教育は、自



2学年 9月 造園学実習（剪定）

なぜ林業か、と 自分に問う



株森未来
高橋 幸司
(第40期生)

なぜ、林業に関わるのか。
なぜ、学ぶのか。

私は日々、この問い合わせ自分に投げかけています。林業を通じて目にした山の景色や、そこで出会った人々とのご縁。そうした一つひとつに報いるために、自分は何

をすべきなのか。

私は幼い頃からキャンプや自然と触れ合う機会が多く、高校卒業後の進路を考えた時、「森林に関わる仕事をしたい」と思うようになります。調べるうちに林業という道を知り、興味を持ち、林業

大学校に進学しました。林大では座学から山での実習などを通じて、多くのことを学びました。とある山での実習の時、青空の下で緑が整然と並ぶ景色に思わず見惚れています。それによって、山で働く人々に還元できる仕組みをつくりたいと考えています。

現在、私は株式会社森未来という木材流通のスタートアップで、広報やマーケティングに携わっています。日本

の国土の約七割を森林が占めているにもかかわらず、木材自給率はまだ半分にも届かず、流通の断絶が課題です。私たちはその課題をビジネスの力で解決しようとしています。データやテクノロジーを活用して流通を効率化し、持続可能な木材の市場を広げていく。それによって、山で働く人々やその景色に報いることがあります。山の多様な価値を社会へ届け、林業に携わる人たちが笑顔で働ける

未来をつくりたい。まだ道半ばですが、ぜひ一日

ですが、この思いを胸に日々取り組んでいます。林大生の皆さんに伝えたいのは、自分がなぜ林業を学んでいるのか、その意味を問い合わせてほしいということ。そして、様々な人の話を聞き、いろいろな場所に行き、多様な経験を重ねることで、必ず自分の志が形になっていきます。私自身も模索を続けていますが、一緒に「林業を通じて自分は何を成し遂げたいのか」を考え、歩んでいきましょう。

檜のアドバイス



准教授
新津 めい

一日一日を 大切に

入学式を迎えたことを覚えています。保護者の皆様や関係者の皆様には大変お世話になりますが、よろしくお願ひします。

私は主に授業編成を担当しています。毎月の授業時間割の作成や、講師の方々との日程調整、日々の授業準備を行っていますが、最初に学校便覧を見たときは授業内容の多様さに驚きました。専門科目の座学やチエンソーリー操作を

この四月から林業大学校に異動ってきて早くも半年が経ちました。異動してくるまで林業大学校との関わりはほぼ無く、学生の皆さんはどういう学校生活を送っているのだろうとドキドキしながら

はじめとした実習に加えて、数学や物理学等の教養科目の座学がありつつ、みこしまくりや御嶽山清掃登山、木曽町駅伝等の地域行事への参加も大切な授業のひとつとなっています。また、放課後や休日はチエンソーリー練習、自主研究、地域活動、アルバイト、趣味等々…と各々が充実した毎日を送っているところを目

そんな日々忙しい学生の皆さんはどのような学校生活を送っているのだろうとドキドキしながら

さんは十分承知のことと思いま

ますが、ぜひ一日

要となる知識や林業に限らず社会生活で役立つ知識が詰まつた内容となっています。

一日を大切に過ごしていただきたいです。授業風景を見ていると、楽しそうに受けていた授業もあれば、苦しく途中で力尽きて（寝落ちして）しまった様子も見受けられます。

私も自身も経験がありますが、興味のないことは学ぶのも苦痛で避けてしまいがちです。しかし、林業大学校の二年間の授業は、教養科目においても今後の授業や、将来林業関係の仕事に就いたときに必

であります。そして、林大卒業後も現場で働く人々の話を聞く機会がありました。そう言つた

まま、皆さんの力になれるような内容を考え授業をしてくださっています。もちろん学校教務職員も同じです。

毎日を大切に、林業大学校での学校生活を楽しく実りあ

るものにしてください。

林大生の活動報告

4月3日に入学式が行われ、新たな年度がスタートしました。昨年度は早々に新型コロナによる学年閉鎖などがありました。今年度はそのようなこともなく、様々な活動を行うことができました。当初、寮生活など戸惑うことも多かった1学年生も徐々に慣れ、林大生の底力を存分に発揮する中、地域の皆さんとの交流を深めることができました。今後も地域を愛し、地域に愛される林大生であってほしいと願います。

御社始祭での活動（6月）



6月3日、20年に一度行われる伊勢神宮式年遷宮の「御社始祭」に2学年生が林大生として初めて参加し、伝統的技法「三ツ紐伐」を見学した後、社人の皆さんと一緒に御神木の引出しを行いました。

御嶽山登山道整備に参加（7月）



7月2日、御嶽山登山道整備に1学年が参加しました。枕木の整備、草刈り、雨水対策の水路づくり作業に地域の方々と一緒に汗を流しました。

みこしまくりでの活躍（7月）



毎年7月23日に実施の「水無神社例大祭（みこしまくり）」に参加しました。みこしを担ぎ、木曽の熱い夏を堪能

させていただきました。次の日は肩が真っ赤に。

信州伐木チャンピオンシップに出場（8月）



8月30日に林大グラウンドで開催された2025大会に2学年4名が出場し、ビギナークラスでは清野嗣君が見事な逆転優勝！エキスパートクラス出場の3名も卒業生ら競技経験のある強者を相手に頑張りました。

オープンキャンパスで実技を披露（7・8月）



7月26日、8月24日のオープンキャンパスでは、2学年メンバーが日頃研鑽に励んでいるチェーンソーや林業機械の操作技術の「スゴ技」を披露しました。

丸太を6段積み上げた際、大きな拍手が沸き起こりました。

アカデミー・ジュニアクラス伐木競技交流会中の競技会で優勝（9月）



9月14日に鳥取県で開催された学生交流会中の競技会に、本校1学年の向井鉄太君（鳥取県出身）が参加しました。緊張の中、日頃の実力を発揮することができ、見事優勝しました。おめでとう!!